



農地に関する情報や農業委員会だよりのバックナンバーを掲載しています。

農業委員会だより



【写真】

石菖根地区 坂本 一浩さん

詳しくは、2ページ「地域の話題」をご覧ください!

新年明けまして おめでとうございます 会長 石塚 道宏



世界的な情勢不安や気候変動による食料生産の不透明化の中で、農業委員会では、「農地利用の最適化」と地域の話し合いによる「地域計画の実行」に取り組んでいるところであります。

農業生産者の高齢化、後継者不足は常に論じられているところであります。農業を守るということは、地域を守る、農村集落を守るということにつながっています。

それぞれの立場での情報を共有しながら、関係機関との連携を深め、また、他業種との意見交流を推進し、農業委員、農地利用最適化推進委員一丸となって市産業の発展に寄与してまいります。

本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

農業委員会の活動報告



10/8

市長へ意見書を提出

「柏崎市農地等利用最適化推進施策に関する意見書」を、櫻井市長に提出しました。意見書の内容は、次のとおりです。

1. 中山間地域対策について

中山間地直接支払制度の拡充

中山間地域等直接支払交付金の対象農用地の要件緩和及び実態に即した交付要綱の見直しを国に対して要請すること



市長と意見交換

意見書を提出後、市長と農業施策について意見交換を行いました。

10/15

市議会との意見交換会を開催

農業委員会役員、農政会議委員と市議会産業建設常任委員会委員との意見交換会を開催しました。

市長へ意見書で要望した

1. 中山間地域対策について 2. 渇水対策について
の2点をテーマに、現場に即した交付金の要件見直しや、農業用ポンプ・ため池にかかる費用の支援などについて意見を交わしました。

.....



市議会産業建設常任委員会(手前)と農業委員会(奥)

地域の話題

石曾根地区 「合同会社弥栄釀造」坂本一浩さん(35)に話を聞きました!

坂本さんは令和7(2025)年、宮之下集落で古民家を改装し弥栄釀造(石曾根1563-1)を立ち上げました。同釀造所のお酒は、米麹だけで仕込む「十割麹酒」で、その米麹には宮之下産の米を使用しています。坂本さんは農事組合法人宮之下生産組合の方々とともに米づくりにも取り組んでおり、「冬は酒造り、春から秋は農作業という生活を続けていきたい。」と話します。昨年は、田植えや稻刈りの体験会を開催し、いずれも東京都から30名以上の参加者が訪れたそうです。今後は、醸造所に直売所を併設したり、近隣に宿泊施設を開設したりする計画もあり、「泊まりながら農業体験ができる環境を整えたい。宮之下の関係人口を増やしていきたい。」と目を輝かせていました。自身のお酒とともに、宮之下の米、そして集落全体の盛り上げを目指しています。



いってき
ITTEKI(一擲) 十割麹酒
vol.0.3 白夜

10/
28

北信越ブロック女性の農業委員会研修会 (石川県小松市)

木場潟公園東園地で、里山再生と再生エネルギーの取り組みを見学しました。県とJAとコマツの技術の共同により、「放置林をどうにか出来ないか」と考え実現した素晴らしい施設でした。施設内では、ソーラーパネルやハウス野菜の温度・水分管理装置など、さまざまな技術が導入されており、私の想像を超える取り組みばかりでした。



木場潟公園東園地の視察



参加者による意見交換会

また、新規就農支援事業に関する講演では、研修生の募集やレンタルハウスに力を入れており、毎年予想を大幅に上回る応募があるとのことでした。

「農業は甘くはないが、1人ではない!!」と感じた、充実した研修となりました。

(農業委員 月橋 明日香)

11/
5

新潟県農業委員会大会 (新潟市)



農業委員会憲章齊唱

県内の農業委員・農地利用最適化推進委員が一堂に会する本大会に、当委員会から18名の委員が参加しました。

「農地利用の最適化に向けた施策推進に関する要請決議」などの3議案が可決された後、全国農業会議所の稻垣照哉専務理事から、地域計画の実行に関する中央情勢報告がありました。さらに、農林水産省 農産局 農産政策部 企画課 水田農業対策室の笠原健室長による「米をめぐる状況について」と題した講演を行われました。

11/
20

上・中越協議会合同研修会 (十日町市)



青山氏による講演

越後妻有文化ホール段十ろうで開催された研修会に、当委員会から13名の委員が参加しました。

研修会では、新潟食料農業大学 大学院教授の青山浩子氏による講演「これからの地域活性化とは～令和の米騒動を契機に考える～」が行われました。その後、農林水産省 北陸農政局 新潟県拠点 地方参事官の田中将之氏から、「米をめぐる状況について」の情報提供がありました。

管外視察研修

10月24日に、上越市と十日町市で視察研修を行い、13名の農業委員・農地利用最適化推進委員が参加しました。

上越市浦川原区

総合事務所 中山間地域農業「将来ビジョン」の作成の取り組み

紅葉の始まった秋晴れの中、上越市中山間地域の「将来ビジョン」策定について、上越市 農林水産部 農村振興課 中山間地域農業対策室と浦川原区総合事務所の方々から話を伺いました。当該地区もご多分にもれず、離農や高齢化の進行に加えて担い手不足や沢地等地理的条件を抱えていました。これらを打破するため、幅広い農業者が参画する「みらい農業づくり会議」を立ち上げて事業骨子を作成し、地域農家との話し合いを行ったといいます。国等の補助金を最大限活用した上で、上越市独自の補助金も創設し、さらに、マンパワーも投入していました。感心したのは、地区農業振興公社が黒字経営だということです。「国がいかに立派なビジョンを作成しても、山間地域の長期に渡る日本の生き残りをかけた農業経営の指針が見えてこない」という言葉が印象的でした。



「将来ビジョン」の取り組み紹介

(農業委員 灰野 善栄)

下猪子田(現地)

浦川原区の将来ビジョン「芝の栽培による雑草抑制効果」

.....

浦川原区みらい農業づくり推進協議会の「農作業の省力化の取り組みとして芝による畦畔管理」を研修させていただきました。山間の管理された田園風景の中での研修でした。あいにく夏の猛暑で芝は枯れてしまったとのことで、繁殖効果の確認はできませんでした。代わりに畦畔水路の草刈り作業の様子を見ることができました。畦畔の隣に水路あり。いつの間にか流れの悪くなっている排水路を、降雪前に掃除しておくことは湛水による稻わらの寄りを防ぐためにも必要だと思いが巡りました。「帰ったら畦畔の草刈りと水路掃除は必ずやろう」という思いを強くさせられた研修でした。



雑草抑制に効果のある芝栽培を見学



上越市の担当者の方々と

(農地利用最適化推進委員 小林 勇)

十日町市まつだい農舞台

まつだい棚田バンク及びオーナー制度

まつだい棚田バンクは、NPO法人越後妻有里山協働機構が運営しており、約11.5ha、160枚の田を、3名の社員が地元農家の協力を得て、管理・耕作しています。一枚当たりの平均面積は約7aで、棚田の地形のため、水管理は見回りに2日もかかります。令和7(2025)年は夏の水不足も影響して、反収は3~4俵だったそうです。

農作物の生産販売の売上ののみでは採算が合いませんが、まつだい棚田バンクを通じた200以上の里親からの出資によって収支が成り立っています。「機械化できず人の手がかかるならば、それを多数の人が関わる機会と捉えて体験や交流の場としよう」という、農産物の生産販売を超えた経営の考え方でした。

少しでも多くの田を維持するには、機械化ではなく場を大規模化する方法か、教育機会を提供する方法か、いずれの方法にしても、組織化と業務の効率化が不可欠だと感じました。

(農地利用最適化推進委員 滝江 嘉輝)



まつだい棚田バンク担当の石塚氏の説明を聞く委員



棚田の見学



農地利用最適化
推進委員

山田 信雄
(野田地区)

農地とは、耕作の目的に供される土地です。耕作とは、土地に労費を加え肥培管理を行って作物を栽培することをいいます。肥培管理とは、農作業全般のことです。耕し、種をまき、水の管理をし、肥料をやり、農薬を散布することです。

つまり、農地とは、労力やお金を使って、作物を管理しながら栽培するための土地ということです。農地があるから米が作られる、野菜が作られる、家畜に与える餌が作られる、農地があるからこそ、我々の食がつながっているのです。

では、この農地は、今どのような状況なのでしょうか。全国の農地面積は、昭和40(1965)年には約600万haでしたが、令和7(2025)年には約420万haとなっています。60年間で180万haほど

の農地が減少したことになります。私が就農した平成12(2000)年は約480万haで、25年間で約60万haの農地が減っています。(※)

たしかに私が就農した頃は、自分の農地を守っている方がたくさんいたように思います。水利組合が行う春の江さらいには、たくさんの方が参加していました。総会、懇親会もにぎわいで満ち、その年の農業について楽しく語り合っていた記憶があります。今はどうかというと、春の江さらいや総会にはなかなか人が集まらず、懇親会はなくなってしまいました。私の集落では14軒の農家がいましたが、今は2軒です。

農家の大規模化により、農地の集積は進みました。しかし、自分の農地を守る小さな農家がいる時代は終わり、後継者のいない山間部の農地は雑木が生い茂り荒廃が進んでいます。

農地の減少にストップをかけるのは誰なのでしょうか。

※ 参考:農林水産省統計部『耕地及び作付面積統計』

令和7(2025)年産米収穫を終えて



このまま終わらないかと思った暑すぎた夏が、ようやく終わりの兆しをみせた9月の終わりに山波農場では令和7(2025)年産米の収穫を無事に終えることができました。

令和7(2025)年作を振り返ってみると、6月27日～8月6日までの41日間降雨がなく、令和5(2023)年に続き高温渴水危機で暑さと不安の中での米づくりとなりました。渴水により稻が枯れ、収穫に至らなかつたほ場を耕作されていた生産者は本当に切なかつたと思います。かける言葉も見つかりません。ただ、令和5(2023)年産米の高温渴水による品質・収量低下を教訓に、生産者皆さまの最後まで諦めない水管理と丁寧な肥培管理の成果により、柏崎市を含む新潟県では品質・収量ともに概ね良好だと聞いており、ほつと胸をなで下ろしているところです。

お米の販売、消費について目を向けてみると令和6(2024)年夏からの米不足が始まり、令和7(2025)年産米の値上がりまで、国民の皆さまから農業に関心を持っていただく機会が増えました。なぜ毎年味は変わるのがか?なぜ価格は変動す

るのか?なぜ生産者の人口は減り高齢化しているのか?正確な答えは出ずとも農業の現場にスポットライトが当たり、消費者皆さまの話題に出るということはありがたいことです。この騒動がいつまで続くかは分かりませんが、これを機会に市民の皆さんへの食糧の安定供給について、私たち生産者がしっかりとした考えを持ち、情報発信していくことが大事ではないかと考えます。

日本においては、農業も数ある事業の中のひとつです。私たちはお客様の食卓へ喜んでいただける農産物をお届けするという使命を忘れず、柏崎の未来を担う子供たちに選んでいただける産業となる努力を続けていくことで、私たちが夢見る農業の未来を創られるのではないでしょうか。



農業委員
山波 剛
(別保地区)

農業委員と農地利用最適化推進委員を募集します

令和8(2026)年7月19日をもって任期満了となる農業委員と、農地利用最適化推進委員の推薦を求めるとともに募集を行います。

柏崎市ホームページ(様式など)



農業委員

推進委員

推薦及び募集要項

	農業委員	農地利用最適化推進委員																																
応募方法	<ul style="list-style-type: none">推薦または自薦によります。既定の様式に必要事項を記入の上、持参または郵送により、農業委員会事務局へご提出ください。(市役所開庁日の午前8時30分から午後5時15分まで)様式は、農業委員会事務局のほか、柏崎市ホームページからもダウンロードできます。																																	
受付期間	令和8年3月3日(火)から 令和8年3月30日(月)まで 【必着】	令和8年4月24日(金)から 令和8年5月21日(木)まで 【必着】																																
対象者	農業に関する識見を有し、農地などの利用の最適化の推進に関する事項や、その他の農業委員会の所掌に属する事項に関し、その職務を適切に行うことができる者	農地などの利用の最適化の推進に熱意と識見を有する者																																
資格	<p>次のいずれかに該当する者は、委員となることができません。</p> <ul style="list-style-type: none">破産手続開始の決定を受けて復権を得ない者拘禁刑以上の刑に処せられ、その執行を終わるまで、またはその執行を受けることがなくなるまでの者柏崎市の職員	<ul style="list-style-type: none">柏崎市農業委員																																
	<ul style="list-style-type: none">総会に出席し、農地の貸借・売買や転用などの審議・判断	<p>総会に出席し、担当区域の農地などの利用の最適化の推進に関する意見を述べる</p>																																
主な職務	農業委員・農地利用最適化推進委員と連携した業務 <ul style="list-style-type: none">担い手への農地集積・集約化遊休農地の発生防止・解消新規参入の促進遊休農地に係る調査及び遊休農地所有者への利用意向調査農地の貸借・売買や転用などに関わる現地確認、関係者への聴取、非農地判断 など																																	
任期	令和8年7月20日から令和11年7月19日まで																																	
募集人員	19名(市内全域を1区として募集)	27名(地区ごとに募集人数を定める)																																
選任方法	<p>推薦を受けた者及び応募した者の中から候補者を選定し、市議会の同意を得た上で、市長が任命します。</p> <p>※選任に当たっては、農業委員候補者評価会議を開催し、提出された書類をもとに評価を行い、市長に報告します。(必要に応じて面接を行う場合があります。)</p> <p>※選定に当たっては、次の条件があります。</p> <ul style="list-style-type: none">①認定農業者が過半数であること。②利害関係のない者(中立委員)を1名以上含むこと。 <p>※また、委員の配置に当たっては、地区ごとに偏りがないように配慮します。</p>	<p>推薦を受けた者及び応募した者の中から候補者を選定し、下表のとおり担当地区を定めて農業委員会会長が委嘱します。</p> <table border="1"><tr><td>田尻</td><td>北鶴石</td><td>中鶴石</td><td>南鶴石</td></tr><tr><td>2名</td><td>2名</td><td>2名</td><td>1名</td></tr><tr><td>北条</td><td>西中通</td><td>中通</td><td>柏崎</td></tr><tr><td>2名</td><td>3名</td><td>2名</td><td>2名</td></tr><tr><td>米山・上米山</td><td>高田</td><td>高柳</td><td>西山</td></tr><tr><td>1名</td><td>2名</td><td>2名</td><td>2名</td></tr><tr><td>上条</td><td>別俣</td><td>野田</td><td>鶴川</td></tr><tr><td>1名</td><td>1名</td><td>1名</td><td>1名</td></tr></table> <p>※選定に当たっては、提出された書類をもとに評価を行います。(必要に応じて面接を行う場合があります。)</p>	田尻	北鶴石	中鶴石	南鶴石	2名	2名	2名	1名	北条	西中通	中通	柏崎	2名	3名	2名	2名	米山・上米山	高田	高柳	西山	1名	2名	2名	2名	上条	別俣	野田	鶴川	1名	1名	1名	1名
田尻	北鶴石	中鶴石	南鶴石																															
2名	2名	2名	1名																															
北条	西中通	中通	柏崎																															
2名	3名	2名	2名																															
米山・上米山	高田	高柳	西山																															
1名	2名	2名	2名																															
上条	別俣	野田	鶴川																															
1名	1名	1名	1名																															
その他	<ul style="list-style-type: none">両委員とも柏崎市の非常勤特別職となり、職務には守秘義務が伴います。応募の状況については、柏崎市ホームページなどで公表します。なお、公表は住所を除く全ての記載内容を対象とします。																																	

柏崎市賃借料情報

令和8年1月1日

柏崎市農業委員会事務局

★令和7年1月から12月までに締結(公告)された農地の賃借料情報を提供します。

- これは、農地の賃借料を話し合うときの目安となるように地域の実勢を最も多い締結額、最低額、最高額で表したもので、賃借料を決めたものではありません。
- 賃借料に、水利組合の水利費や土地改良区の賦課金などに相当する費用が含まれている場合があります。
- 賃借料を決める際は、農地の実情に応じ、貸し手と借り手の両者でよく協議した上で決定してください。

1 田(水稻) 10アール当たり (100円未満四捨五入)

締結(公告)された地域名	最も高い締結額(円)	最低額(円)	最高額(円)	データ総数(筆)	備考
旧柏崎田尻北鰐中通	10,000	3,000	16,000	857	
中中高通鰐石田条	10,000	3,000	12,500	883	
米高山浜	—	—	—	—	実績なし
黒上南北米鰐山石条	4,400	2,000	9,000	338	
高柳町	—	—	—	—	実績なし
西山町	10,000	3,000	15,000	179	

2 畑(普通畑) 10アール当たり (100円未満四捨五入)

締結(公告)された地域名	最も高い締結額(円)	最低額(円)	最高額(円)	データ総数(筆)	備考
柏崎市全域	5,000	2,400	8,900	16	

免税軽油に係る耕作証明書は

1月9日(金)から1月30日(金)まで

柏崎市役所3階の農業委員会事務局窓口

または高柳町事務所・西山町事務所で発行いたします。



持
ち
物

- ・本人確認資料(免許証・マイナンバーカードなど)
- ・代理人申請の場合は、委任状と代理人の本人確認資料
(証明対象者と同一世帯の方は、委任状は不要です。)
- ・法人申請の場合は、法人印
- ・証明手数料(1通300円)

申請様式は
こちら▶



農地転用には許可が必要です!

農地を農地以外のものにする(農地転用)には、農地法に基づく許可が必要です。違反転用者には、3年以下の拘禁刑または300万円(法人は1億円)以下の罰金が科せられる可能性があります。詳しくは農業委員会へご相談ください。



住宅を建てたい



駐車場として利用したい



資材置場にしたい

相続登記されていない
農地が社会問題化しています。
相続の際は、農業委員会への
届け出をお忘れなく!



今なら3ヶ月間、無料で試読できます

全国農業新聞

■毎週金曜日発行 ■月額700円(送料、消費税込み)

■申込みは、農業委員会事務局へ

農業の最新情報や営農に役立つ情報が満載です。
地域の明るい話題なども紹介しています。



発行所:
全国農業会議所

国民年金に上乗せする公的な年金制度

農業者年金で 老後の生活を安心サポート



「女性のための
農業年金者ガイド」動画

- 1 農業者なら
広く加入できる
- 2 積立方式で
少子高齢化時代に強い
- 3 保険料は2万円から
自由に選択できる
- 4 終身年金で80歳までの死亡一時金あり
- 5 保険料は全額社会保険料控除
- 6 保険料の国庫補助制度(一定要件あり)



編集後記

新しい年が始まりました。

令和7(2025)年は、農家にとって良い意味でも悪い意味でも嵐のような一年でした。

今年はどんな一年になるのでしょうか。大臣が代われば政策が変わる、それも真逆に。農業を生業として安心して後継者に託せる未来を描けるように政府には期待したいです。農業委員会だよりでは、皆さんに必要な情報を分かりやすくお伝えするよう努めてまいります。今年もよろしくお願ひいたします。

(農業委員 水野 美保)



情報会議代表 水野 美保

情報委員 石塚 道宏 / 高橋 啓子 / 山波 剛 / 駒野 博実 / 月橋 明日香

